

58号「福良」、59号「波食棚」、60号「二の浜周辺の藻場・ガラモ場」に続き、今回は、「自然学習歩道から見える夕陽と朝陽」を紹介します。

1 二の浜の夕陽

坂井市三国町には、数々の夕陽スポット(H12年「日本の夕陽百選」坂井市三国地区、H13年夕陽スポット10選)があります。ここ、二の浜では、春分～夏至～秋分にかけてとても美しい夕陽が見られます。

春分の頃には雄島に夕陽が沈み、それ以降、夕陽の沈む位置がだんだん二の浜正面の海に移動し、夏至の頃には、目の前の水平線に沈む夕陽が見られます。

そして、夏至以降は、沈む位置がだんだんと雄島側に戻り、秋分の頃には、また、雄島に沈む夕陽が見られるといったサイクルです。

当たり前のことかもしれませんが、この周期と美しい夕陽を目の当たりにすると、自分が地球や太陽系で生きていることを改めて実感します。

2 雄島から見る朝陽

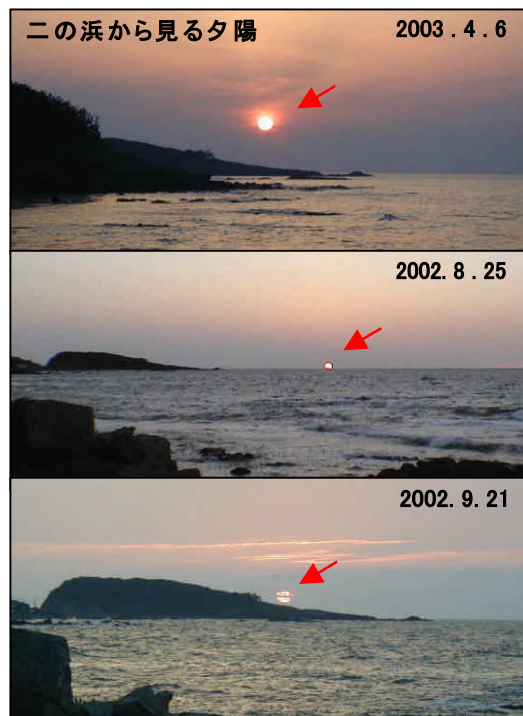
福井で、海から昇る朝陽を見られる場所？数年前、組頭会長のアドバイスもあり、最も可能性が高い、夏至の頃に、日本海に突き出した雄島で確認してみました。

梅雨の時期なので天気次第ですが、日の出前の朝4時頃から石川県の海岸の方向を見ていると、次第に明るくなり、いよいよ平坦な陸地の向こう側から真っ赤な朝陽が昇りはじめました。

福井の海で初めて見る朝陽に、眠さも忘れて見入ってしまいました。

3 夕陽の自然解説板

二の浜の芝生広場には、夕陽の自然解説板がある木製デッキが設けられています。夕陽の色・美しさや、海面に沈んでいく時の角度がその場所の緯度に関連するなど、きっと新たな発見があるはずです。



日本海に沈む美しい夕陽

このデッキはどの方向を向いているのかな(磁針で計ってみよう)

季節ごとの夕陽の沈む方位と時刻(2003年の場合)

季節	方位	時刻
冬至	雄島	17時45分頃
春分	二の浜	17時55分頃
夏至	雄島	18時15分頃
秋分	雄島	18時25分頃

太陽の動き

磁針で計った方位角

このデッキの位置は、緯度:北緯35°14'52" 経度:東経136°8'34" (日本海側)

夕陽が赤く見える理由

光が大気を透過する距離 L1 > L2

空が青く見えるのは、大気中で散乱された青い光だけが目に入ってくるから。夕陽が沈む時は、光が大気中を通過する距離が長いから、上方に向かって赤・黄・緑・青・紫へと虹色に染まります。そして太陽が沈むにつれて、虹色に染まった空は赤い夕陽といっしょに水平線に沈んでいきます。

光の性質と太陽光

色	波長	性質
青	短い (380-430nm)	散乱されやすい
赤	長い (620-780nm)	散乱されにくい

*太陽光は青紫第一線の光が降りて白色光となっています。青い光が散乱されるほど太陽の光は赤く見えます。

夕陽の色の季節変化

冬は、夕陽が黄色や橙色に染まります。これは、冬型の気圧配置(西高東低)の場合、北西の季節風が強く大気中のチリが吹き乱れ、水蒸気も少ないので、波長が短い青や緑の光が、赤い光とともに私たちの目に届かず、夏型の気圧配置(南高北低)の時はこの逆で、南からの大気の流れ込みで浮遊するチリや微小な水滴が多くなり、赤い光が多く私たちの目に届き、真っ赤な夕陽が見られます。

日本海の夕陽が美しい理由

これにも大気関係しています。偏西風によって乾いた空気が、日本海の上空で海面から蒸発した水分をたっぷり含んだ湿った大気となって海面に漂います。この変化にとんだ大気のフィルターを通して、日本海の夕陽は夢幻自在に色彩と形状を変化させるため、大きく美しいと賞われています。

三国観光協会ホームページ「三国の美しい夕陽の秘密」から引用

※坂井市作成「みくに自然学習歩道 map」は海浜公園センターで入手可。[福井の浅海:<http://www5a.biglobe.ne.jp/~k-marine/>]でも紹介中。